

笛の音の虜たち

森 京介

湖水に網をかけるように
笛の音が広がって行く
魚たちが聞き耳を立て水面に上がって来る
陶然とした眼も
愁いを帯びて下向き加減
尾も鰭もうなだれて
鱗だけが聞き耳を立てている
釣り針を警戒する習性が
音色をいささか甲高く伝える
やがて
水を波立たせる韻律は溶ける様に広がり

その暗号の様なメロディを
甘い招待状と受け止めて
魚たちは一センチまた一センチと上昇する
気付いた時
周りの水は魚群を取り込む罟となった
餌に見えた獲物もすべて
彩られた疑似餌であった
圧縮した反省が魚群を大きく震わせるが
時すでに遅く
仲間たちと共に薪のように束ねられた
邪悪な網が魚たちの束を
巻き上げて行った

(二〇二〇年一月一七日)